

記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当係長名）	その他の 配布先
1／10 （金）	企画県民部 科学情報局 情報企画課	ダイヤルイン 078-362-3047	情報企画課長 上村 政弘 （高度情報化班長 橋岡 淳）	

全国初「全県土分の高精度3次元データ」の公開について

兵庫県では、「ひょうご・データ利活用プラン」に基づき、“データの集積・活用による価値創造”の取組を推進しています。このたび、その一環として、高精度な3次元データを誰でも自由に利用できるオープンデータとしてWebサイトに公開します。

1mメッシュの高精度で、全県土分のデータ公開は全国で初めてです*。詳細な地形や構造物の現況把握・分析が可能になるため、地域課題の解決や新サービス開発などに積極的に活用されることを期待しています。

これに併せて、このデータや他のデータと最先端技術を組み合わせて、民・産・学・官の協働による地域課題の解決に向けた取組を推進するため、利活用のアイデア・提案を募集します。

※1mメッシュの精度で全県域の3次元データセットを公開する都道府県は全国初。

国土地理院が広範囲に公開している標準的データは5m又は10mメッシュ(本県公開データは、その25倍又は100倍の精度)

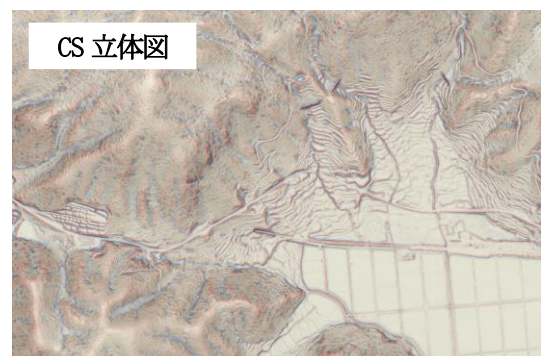
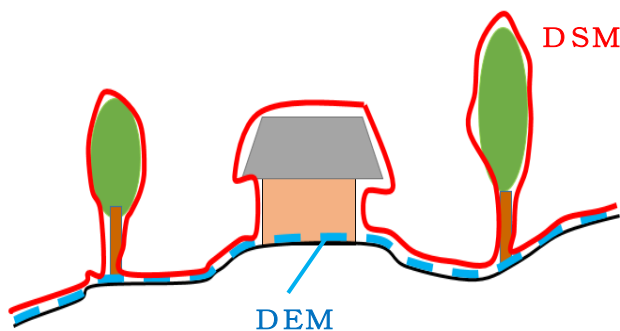
記

1 公開するデータ

(1) 内容

	種類	データ形式
①	建物・樹木などの地物の高さを含む地球表面 [DSM]	緯度・経度・標高値のテキストデータ
②	建物・樹木などの地物の高さを含まない地表面 [DEM]	
③		画像データ（緯度・経度・標高値を含む）
④	地形の微細な凹凸を表現する地図 [CS 立体図]	画像データ

※航空レーザー測量（平成24～25年度実施）により取得したデータ等を加工・作成



(2) 公開日 2020年1月10日（金）

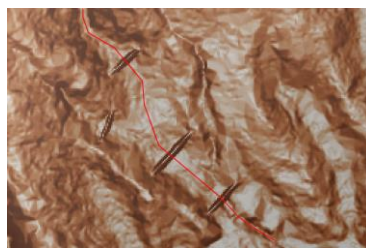
(3) 利用方法 「G空間情報センター」のWebサイトからダウンロード
<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/2010-2018-hyogo-geo-potal>
 ダウンロードできない場合は、兵庫県情報企画課にお問い合わせください。

2 ビジネス・研究等での利活用

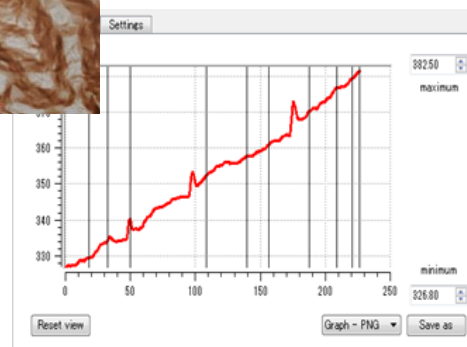
目的を問わず二次利用可能なデータですので、様々な用途でご利用ください。

(想定例)

- ・簡易測量・工事設計支援 (右図)
- ・災害被害シミュレーション
- ・日照・通信環境シミュレーション
- ・ドローン自動航行ルート設定
- ・農業機械の自動走行
- ・除雪車の障害物回避走行



- ・PC画面で縦断図を測量
- ・工事の計画時における現地測量の簡素化



3 データ利活用のアイデア・提案の募集

3次元データを活用して、地域課題を解決するアイデア・提案を募集します。

(分野や手法は問いません)

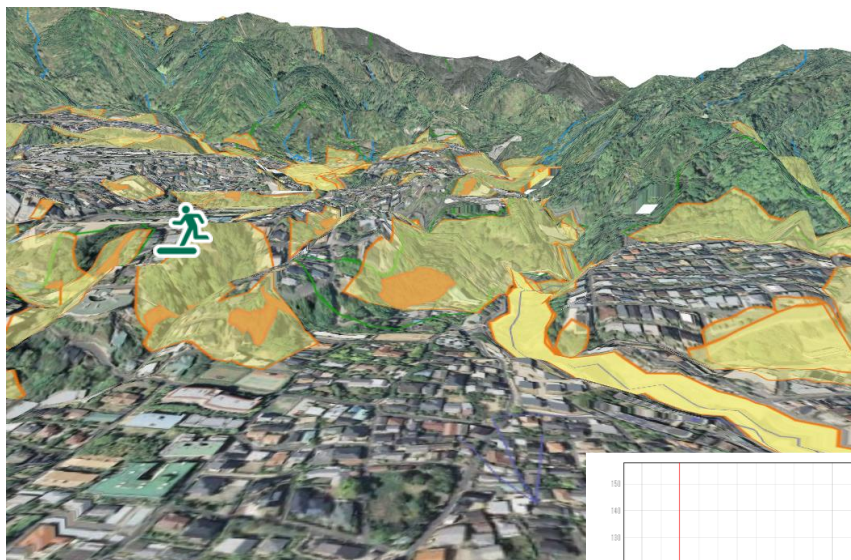
ご提案やお問い合わせは、下記までご連絡ください。内容に応じて、関係者をまじえた対話・共創の取組について調整させていただきます。

<連絡先>兵庫県企画県民部科学情報局情報企画課高度情報化班

Tel : 078-362-3046 mail : johokikaku@pref.hyogo.lg.jp

(想定例)

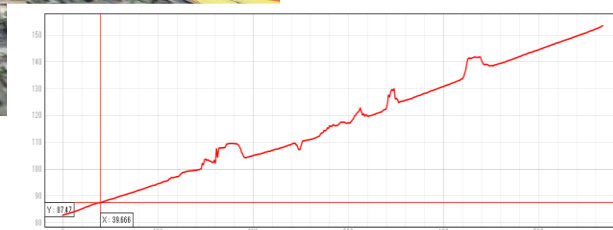
- ・地域の防災活動



CGハザードマップと指定避難場所を重ね合わせた3次元地図を作成

災害の危険度を地形(高低差)からリアルに認識

指定避難場所までの避難ルート的高低差を把握(災害時要援護者の誘導等に活用)



(参考：地理空間情報の活用に関する背景、国の動向)

○地理空間情報活用推進基本法(H19年)

【背景】

- ・地理空間情報の活用の推進に関する施策を総合的・計画的に推進するために制定

【内容】

- ・国の責務：基本計画の策定、基本的施策の推進（基盤地図情報の整備、情報の円滑な流通等）
- ・地方公共団体の責務：地域における地理空間情報の活用推進施策の策定・実施

○地理空間情報活用推進基本計画(H29年3月)

【背景】

- ・IoT・AI等の技術革新が進み、スマートフォンや地図を利用したナビゲーション・検索サービス等が普及する中、地理空間情報は、新産業・新サービスの創出や社会課題の解決に貢献する「イノベーションの源泉」として不可欠

【目指すべき姿（抜粋）】

- ・産学官民が協調して高精度な地理空間情報を活用し、社会課題の解決や新産業・新サービスを創出して、国民一人ひとりが成長と幸せを実感できる社会をめざす
- ・高度化・小型化するモバイル端末と地理空間情報を活用し、高齢者や障害者を含め、誰もが容易にシームレスに屋内外を移動
- ・小型無人機による自動配送、農業機械の自動走行システムなど、地理空間情報を用いた革新的な技術が導入され、低コストで人手不足を補いつつ、豊かな自然環境の保全、生活の利便性や地域活力の向上等に貢献
- ・広範囲にわたる災害状況を地理空間情報によって視覚化し、迅速な初動対応・応急対策、早期の復旧・復興活動につなげるなど、地理空間情報は、国土をソフト面で強靱化し、災害から国民の命を救う情報インフラとなる

○G空間情報センター

- ・設立趣旨：地理空間情報活用推進基本計画に基づき、様々な機関が保有する地理空間情報を円滑に流通し、社会的な価値を生み出すことを支援する機関として設立
- ・運用主体：(一社)社会基盤情報流通推進協議会
- ・事業内容：各主体が整備する地理空間情報を集約し、産学官民連携のインフラとして、誰もが容易に検索・入手できるWebサイトを構築